

同窓会だより

歯学部同窓会会長に就任して

新潟市開業 多和田 孝 雄（6期）



前神田正一会長の後を受けて本年4月1日より歯学部同窓会会長に就任致しました。宜しく願い申し上げます。新潟市で最初に開花すると言われております歯学部駐車場の桜も今年で見納めとなりました。駐車場のほとんどの部分が国道に取られてしまうということで、非常に残念な思いであります。既に移植工事も始まっているようですが、無事根付くことを願っております。

私の同窓会運営に対する基本的な姿勢は以下の3点に集約されます。第1点は「会員一人ひとりを大事にすることにより、会員からも大切にされる同窓会作り」であります。ややもすると対外関係に重点が置かれがちな同窓会本部事業のバランスを取りたいと思います。第2点は「会員にメリットのある同窓会作り」であります。役員の方々の協力をいただいて、幅広く検討する所存でございます。第3点は「強い同窓会作り」であります。どなたもご承知のように新潟大学は本年4月1日より国立大学法人新潟に生まれ変わりましたが、今後は厳しい努力を強いられると思われまます。同窓会役員は全員が有能な人材ではありますが、大学及び歯学部支援に向けて更なる力の蓄積が必要であると考えております。

本年4月1日、大学の法人化と時を同じくして新潟大学全学同窓会連絡協議会が設立されました。これは総勢7万数千人を擁する全学同窓会の設立に向けた準備機関であります。役員として私と佐藤定雄副会長、鈴木一郎副会長が参加しております。4月17日に設立祝賀会がイタリヤ軒にお

いて開催されました。また、広報紙も6月上旬には皆様のお手元に届いたことと思います。7月2日には大学首脳陣と全学同窓会連絡協議会の第1回懇談会が大学本部隣の松風会館において開催されました。今後は、本年10月30日(土)にホテル新潟におきまして、大学主催の講演会と連絡協議会主催の交流会を予定しております。

本年4月にはもう一つの出来事がありました。歯学部で口腔生命福祉学科という新学科が誕生致しました。歯科衛生士と社会福祉士のダブルライセンスを取得できる4年制の新学科であります。我々の卒業した歯学部歯学科とは兄弟ということになります。歯学部主催の設立祝賀会は既に開催されましたが、7月24日(土)には同窓会本部、同窓会新潟県支部及び新窓会による設立祝賀会も予定されております。

継続事業をしっかりと推進しなければならないのは当然のことではありますが、上記のような環境変化の中で、旧態依然とした同窓会運営では各種懸案事項への対応が困難になりつつあります。私共同窓会執行部では会員の皆様及び歯学部教職員の皆様の御理解と御協力をいただきながら精一杯会の運営に努めたいと思います。よろしく願い申し上げます。

同窓会副会長就任の挨拶

新潟市開業 佐藤定雄（3期）



多和田孝雄新会長が本年度より歯学部同窓会を執行することになり、その副会長に私を指名してくださいました。多事多難なこの時期での三役入りは、私の身の丈を遙かに高く超えた役



と認識し躊躇しましたが、古くからの付き合いと
のことでお受け致しました。想えば、同窓会本部
の学術理事に名を連ねたのは、多和田会長が昭和
57年で、私は昭和59年でした。以来共に学術部門
を歩み、平成5年卒後研修セミナーでは空前絶後
の受講者殺到の歴史的学術事業を経験した古い戦
士です。同窓会誌13号（平成5月）17ページを読
むと、当時のことが懐かしく思い出されます。

平成8年4月からは福利厚生理事として務め、
代診医派遣制度を提案し、2年間の検討の末、平
成10年にようやく念願の「緊急時代診医相談窓口」
を立ち上げました。国立大学として、他大学卒の
開業医さんも多く支援し役立っております。

約20年間、同窓会役員を携わってきて感じるこ
とは、同窓会費納入の低下、各種同窓会事業への
参加意欲の低下です。これに対する解決策を練り
上げることが焦眉の急であることは間違いありま
せん。私が考える解決策の一番手は、「情報の収集
と提供」にあると思います。具体策として、身近
の会員を知る立場にある「クラス代議員」と「支
部長」の所謂「評議員モニター」の構築を立ち上
げるべく検討に入りました。幸い今やメーリング
リスト（ML）が盛んで便利な時代です。これは
そんなに新しいことではなく、すぐ実行可能であ
り、要はいかに運用を安全に活発化するかです。
「認めてもらいたいなら、認めることから」が鉄
則であると考えております。

第二の解決策は紙面の都合上割愛致しますが、
様々な難問を解決するにあたり、新潟在住の三役
に、大所高所から見渡せる野村修一副会長、迅速
的確な仕事人・赤坂長右副会長、冷静沈着判断力
優秀な宮野正美副会長、情報部門第一人者の鈴木
一郎副会長、実直執務型の成田秀専務の多土済々
の面々を揃え、リーダーシップ抜群の多和田会長
が今船出致しました。私も必死に櫓を漕ぐ所存で
す。皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

歯学部同窓会 専務理事就任にあたり

新潟市開業 成 田 秀（11期）



本年4月より多和田同窓
会会長の要請により専務理
事に就任いたしました11期
生の成田です。

昨年度までは同窓会名簿
編集を担当してありまし
た。この度専務理事とい
う大役を仰せつかり、はたしてこの薄学菲才の身で
重責が勤まるかどうか些か不安なのですが、微力
ながら精一杯努力する所存ですので、山田学部長
はじめ諸先生方、役職員の皆様方、学生諸氏には
ご支援・ご指導・ご協力の程よろしくお願い申し
上げます。

さて、新潟大学歯学部の発展の歴史とともに同
窓会も生まれ、会員も34期生を迎え総勢1800人を
超す大きな組織となって参りました。その間、同
窓会の活動も様々な面で成果を納め大きな評価を
得て参りました。また、全学同窓会連絡協議会に
おいても歯学部同窓会は重要な地位を占める存在
となっております。しかし、組織の巨大化に伴い
新たな問題が生じているのも事実です。例えば、
1期生から34期生までの年齢差拡大による同窓会
に対しての価値観や帰属意識の変化から生じた同
窓会組織の硬直化や、同窓会会員の同窓会に対す
る思い入れの低下、さらに会員サービスに対する
不満などが会費納入率の低下という形で顕在化し
てきています。それに対して同窓会執行部では、
会員のための同窓会という原点に立ち戻り、同窓
会活動をあらためて見直し、会員の声を汲み上げ
る方策を検討し、より身近な同窓会・より有益な
同窓会を目指し努力を重ねております。

また、学生諸氏に対しても、歯学部と連携して
様々な事業や支援を通して同窓会の活動や意義を
ご理解いただき、学生時代から身近なそして有益
な同窓会になるよう努めて参ります。そのために





も、皆様方にはより一層の同窓会へのご理解をいただき、同窓会活動に対してのご意見・ご批判・ご指導などいただければと願っております。

平成16年度同窓会総会を終えて —新執行部スタートによせて—

副会長 佐藤 定 雄

日時：平成16年4月24日(土) 午後0時30分～
場所：歯学部第一講義室

今年度は、6年間勤められた神田正一前会長から歯学部同窓会を引き継いだ多和田新会長執行部の第1回目の総会となった。議長役の総務理事が全員新顔ということで、急遽、宮野副会長が議長を勤めることで始められた。会の最初に、1月に逝去された17期生の子安球貴先生と2月に急逝された15期生の大島覚先生に対し全員が謹んで黙禱を捧げた。

次いで、多和田会長が「会員を一人ひとり大切にすることを目的とし、これに即した同窓会運営を行いたい」と宣誓するような形で挨拶が始まり、同窓会則の不備を検討し、新しい時代に即した諸規則に改めたいことや、口腔生命福祉学科設置祝賀会の企画や、新潟大学独立行政法人化に伴い発足したばかりの全学同窓会(連絡協議会)を通じ、各学部同窓会単位ではなく全学同窓会が一丸となって大学本部を支援しつつ、延いては歯学部を応援する新たな形を構築したいとの説明があった。さらに、同窓会費納入低下を真正面から取り組み、

会員から広く理解を得て、同窓会を支持していただけるように会を運営したいとの姿勢を表明した。

想えば、神田前会長が引き継いだ時点での同窓会会計は底を割り、如何に健全な会計運営を図るかが最重要命題であった。神田執行部は6年間の苦勞を重ねた結果、見事に会計を立て直すことに成功し、昨年秋には第50回全国歯科大学同窓・校友会懇話会ならびに、新設国立大学歯学部同窓会連絡協議会を新潟大学歯学部主管で行い、高い評価を得た後に会長を勇退した。この間、多和田会長は副会長として要に位置し活躍を続けてきた。

本総会では慎重審議の結果、15年度決算および16年度予算案を満場一致で承認を受けた。多和田会長をはじめ新執行部にとっての最大の課題は、34期卒業生を向かえ総勢1832人の大きな組織となった同窓会を、名実共に「頼もしい同窓会」に育て上げることではないだろうか。そのための具体的対策はこれからである。本総会で新潟大学全学同窓会連絡協議会への加入の承認を得た多和田会長は、実は、同連絡協議会設立に強いリーダーシップを発揮し、そのことが評価され副会長にも選出された。その多和田会長の力量と、全役員の頭脳を結集して取り組めばきっとよい成果が得られるものと思う。そこで一番大切なことは会員一人ひとりの温かい理解と協力である。今年からは「同窓会は変わってきたぞ」というイメージを持っていただけるよう、絶えず皆さんの関心を惹きつけながら出発したいところです。本年度の総会を無事終え、新しい執行部の門出にあたり、皆様の強力なご支援を願って止みません。



平成16年度新潟大学歯学部
同窓会・総会学術講演
「顎顔面領域の超音波診断」
林 孝文教授の講演を拝聴して

学術理事 八 卷 正 樹

平成16年度新潟大学歯学部同窓会・総会学術講演は平成16年4月24日(土)に新潟大学歯学部講堂において開催されました。

林先生は1981年新潟大学歯学部入学(17期生)、卒業後1987年に歯科放射線学教室に入局、2000年には臨床系では3人目の本学OBの顎顔面放射線学分野教授となり現在に至っています。今回は先生の専門の一つである超音波を使用した顎顔面領域の診断についてのご講演でした。

顎顔面領域の画像診断は、歯や骨が対象とされることが多いため、エックス線診断がもっぱら利用されています。それに対し、超音波診断は経済的でエックス線被曝が無く安全性の高い検査ということで全身的に多用されていますが、顎顔面領域は超音波診断には不利といわれてきました。

しかし最近では機器の普及や高性能化、診断医の読影能力の向上により、次第に臨床的価値が認識されるようになってきて、現在では、唾液腺の腫瘍性病変や口腔癌の頸部リンパ節転移の診断に非常に高い有用性が認識されているとのことです。

林教授は卒業時より超音波診断に興味があったため、当時超音波診断装置が導入されたばかりの歯科放射線学講座(現在の顎顔面放射線学分野)への入局を選択したそうです。

講演は超音波画像診断装置の原理から始まり、日常臨床において最も頻繁に利用している頸部リンパ節の診断、軟組織・粘膜疾患の診断の症例を説明。

また、特殊な応用例として超音波診断装置の特徴である非侵襲性を生かして行った学童の顎関節症の集団検診の結果では関節円板の転位は意外と多いが(約20%)無症状で可逆的であり長期的に

経過を追うには超音波装置は有用であるなど、広く顎顔面領域の画像診断における利用法と今後の将来展望についても語られました。

超音波診断の「視野が限定され、画像の再現性に乏しい」という欠点を克服し診断ができるようになるまでの林教授の苦労話とそのときに使用した診断装置の実演を交えて非常に興味深いご講演でした。

第51回全国歯科大学同窓・
校友会懇話会に出席して

会 長 多和田 孝 雄

日 時：平成16年6月5日(土) 午後2時

場 所：広島全日空ホテル

当番校：広島大学歯学部同窓会

広島大学歯学部同窓会の主催により第51回全歯懇が広島市内のホテルにおいて開催されました。当日の広島は真夏のような暑さで、新潟との気候の違いに驚くばかりでした。加えてホテルの近くの繁華街では浴衣祭りという大きな祭りが開催されていて、会議終了後の夜になっても熱気は増すばかりでした。歯学系全28の同窓会、校友会の参加があり、本同窓会からは私と佐藤定雄副会長が出席しました。本年度より全歯懇は年1度の開催となり、且つ協議を中心とする事が決まっており、広島大学の御苦労や意気込みが伝わって来るような感を抱きました。以下に当日の様子を御報告いたします。

1. 開会
2. 当番校会長挨拶
広島大学歯学部同窓会会長 柄 俊彦
3. 来賓紹介
4. 来賓挨拶
日本歯科医師会会長 井堂孝純
広島県歯科医師会会長 本山栄荘
広島大学歯学部長 栗原英見



- 5. 出席者紹介
- 6. シンポジウム 「国民の求める歯科医療」
座長

広島大学歯学部同窓会会長 柄 俊彦

シンポジスト

日本歯学系学会連絡協議会会長 赤川安正
講演要旨

平成15年9月に日本学術会議第7部の歯学系の3つの研究連絡委員会が中心となって、日本歯学系学会連絡協議会が発足した。本協議会の目的は社会・国民に歯学・歯科医の重要性を訴えることにあり、そのために学術会議を通じてのさまざまな学術情報を学会に迅速に伝達し共有すること、学会相互の連絡を密にすること、さらには学術会議を通して政策提言の提案を行うことにある。

シンポジスト

広島国際大学医療福祉学部医療経営学科
助教授 谷田一久

講演要旨

香川県の坂出市にある坂出私立病院の経営再建に関わった御自身の経験を基に話しは進められた。手法として激しいリストラ等は行わず、徹底したスタッフの「やる気」教育により賛同者を増やし、結果として再建は成功した。講演の中で多くの参加者の興味を引いたのは、前述の病院において行われた患者アンケート調査の結果である。「良い病院からイメージする言葉」は親切・丁寧、清潔、説明・アフタケア、やさしい、明るい対応、技術が良いの順であった。

- 7. 討議 「国民の求める歯科医療」
前段のシンポジウムを基に各校1～2分の意見を求められた。多くの発言は個々の医院における患者対応の見直し、国民のための保険医療制度の改革等であった。新潟としては直接国民の声を定期的に聞くシステム作りを当日出席した井堂会長に要請した。
- 8. 協議 次々期当番校選出
昭和大学歯学部同窓会に決定

- 9. 次期当番校挨拶
奥羽大学歯学部同窓会会長 岡 伸二
- 10. 閉会の辞
広島大学歯学部同窓会副会長 佐々木 元

平成16年度 新設国立大学歯学部同窓会連絡協議会（国歯協）報告

副会長 佐藤 定 雄

日 時：平成16年6月6日(日) 午前9時～12時
会 場：広島全日空ホテル（葵の間）
当番校：広島大学歯学部同窓会

【会次第】

1. 開会の辞
広島大学歯学部同窓会副会長 渡辺文衛
2. 当番校挨拶
広島大学歯学部同窓会会長 柄 俊彦
3. 各校出席者紹介
4. 講演
演題「卒前・卒後教育と研修医制度の義務化」
講師 広島大学病院・教授 小川哲次先生
5. 協議
 - 1) 前回協議の報告 新潟大学歯学部同窓会
 - 2) 独法化後の大学と同窓会のかかわり方
 - ・大阪大学：全学同窓会研修室等の施設を中ノ島に建設
 - ・長崎大学：今後緩やかに進める
 - ・鹿児島大学：17年1月に連合会を設立
 - ・北海道大学：連合同 窓会を設立し、名簿管理、北大カードを発行し、そこで得た収入は奨学金に当てている
 - ・新潟大学：16年4月に全学同窓会連絡協議会設立
 - ・その他の国立大学歯学部が属する大学からの全学同窓会設立の報告なし
 - 3) 各校よりの質問：鹿児島大学歯学部より代診医制度について質問
→新潟大学歯学部同窓会副会長 佐藤定雄





回答

- 4) 議事録の作成について……今後議事録を当番校が作成
- 5) 次回当番校への申し送り……東北大学 秋に予定
- 6) 次々当番校について……鹿児島大学
- 6. 閉会の辞
広島大学歯学部同窓会副会長 香西克之

【講演要旨】

演題「卒前・卒後教育と研修医制度の義務化」

[卒前教育]

- 1. 医学教育改革の動き
日本の医学教育は欧米に比べて20年遅れている。歯科はさらに医科に遅れること約20年。1970年代に既に、医療者中心から患者（市民）中心の医療の必要を認め転換を図るため、模擬患者教育、OSCE（Objective Structured Clinical Examination）等が実施されていた。
- 2. 歯科医学教育の改革は「卒後臨床研修の改革」から始まった。
平成9年の臨床研修の一部法制化→卒前教育の見直しと改革が動き出す。
卒前から卒後までの一貫した歯学教育、歯科医師臨床研修カリキュラムが組まれた。
生命倫理、医療倫理、臨床倫理を強調。
- 3. 技術偏重と知識偏重が交互に変遷を繰り返してきたが、今は、「100の知識より10の問題解決能力」を重視。
- 4. 「受動的学習」から「能動的学習」へ
「心の底から必要性を痛感した時、学習者に意識と行動の変容が起こる」ことを認識し教育を工夫し実践することで、「質の高い教育サービスの提供」ができる環境が整備される。
- 5. 歯科医学モデル・コア・カリキュラムと歯科医師臨床研修の学習目標
患者との良好な人間関係を築き、安全でしかも質の高い問題中心の歯科医療を提供するために、患者の QOL を最終的に考え、身体的及び

生活環境にも配慮しながら行われる全人的歯科医療についての態度、知識、技能について修得する。→これは生涯を通じて研鑽すべき到達目標である。

- 6. 今後の医学・歯学教育の目標←→学習者中心の能動型教育
 - 1) 患者中心の医療を実践できる医療人の育成
 - 2) コミュニケーション能力の優れた医療人の育成
 - 3) 倫理的問題を真摯に受け止め、適切に対処できる人材の育成
 - 4) 幅広く質の高い臨床能力を身につけた医療人の育成
 - 5) 問題発見・解決型の人材の育成
 - 6) 生涯にわたって学ぶ習慣を身につけ、根拠に立脚した医療を実践できる人材の育成
 - 7) 世界をリードする生命科学者となりうる人材の養成
 - 8) 個人と地域・国際社会の健康の増進と病気の予防・根絶に寄与し、国際的な活動ができる人材の育成
- 7. 良い医療者の必要条件
 - 1) 人間関係を良好に築く能力
 - ・人の痛み、苦しみを敏感に察知できる（思いやりと誠意にあふれた医療者）
 - ・人との良好な人間関係を築くことができる
 - 2) 医療技術→対話に基づく医療
 - ・科学的根拠に基づく医療（EBM）を実行できる。
 - ・チームプレーを上手に実施できる。
- 8. 教える側の問題
優れた研究者や臨床家は良い教育者でもある。

[卒後教育]

厚生労働省と歯科医師臨床研修必修化
歯科医師臨床研修施設の指定希望
↓
歯科医師臨床研修施設の指定申請書の記載
↓





歯科医師臨床研修施設の
 指定申請書の提出←17年8月末まで
 ↓
 歯科医師臨床研修施設の指定申請書の書類診査
 ↓
 歯科医師臨床研修指定申請施設の
 実地調査←17年9月以降
 ↓
 歯科医師臨床研修施設の
 指定に係わる審議←18年2～3月
 医道審議会歯科医師臨床研修部会
 ↓
 歯科医師臨床研修施設の
 指定（厚生労働大臣）←18年4月1日
 ↓
 歯科医師臨床研修事業の開始 ←18年4月～

学長は挨拶で、全国に87の国立大学法人が誕生し公私立を含めた700近い大学の大競争時代が始まったこと、社会に期待される個性豊かな大学づくりが法人化の目的であること、大学の個性を形作るのに学生や教職員以外に同窓生の果たす力は大きいことを強調されました。

つづく協議会の柳本会長は、協議会としては4月17日の設立祝賀会以降、広報紙の発行やホームページの立ち上げなど予定した事業を行ってきたが、今後もユニークな大学づくりのために、親密なパートナーとして、強力なサポーターとして大学を支える存在でありたい旨の挨拶をされました。

伝えられるかな？国立大学法人化 ～第1回新潟大学全学同窓会連絡協議会と 新潟大学との懇談会～

副会長 赤坂長右

平成16年7月2日、表題の懇談会が五十嵐キャンパスの松風会館にて開催されました。

ご存知のように本年4月1日に国立大学法人新潟大学が発足し、競争的環境の中で活力に富む個性豊かな大学づくりを目指した改革のスタートを切りました。時を同じくして母校・新潟大学のブランド力を高めるべくバックアップする目的で全学同窓会連絡協議会も誕生しました。

この懇談会は双方のトップが一堂に会する会合で、今後定期的に開催される懇談会の記念すべき第1回が開かれたということです。

大学側からは長谷川彰学長や河野正司理事らの副学長および各学部長が、全学同窓会連絡協議会からは各同窓会の三役らが出席し、深澤理事・副学長と多和田歯学部同窓会長のお二人が双方を代表して並んで進行役を務め、活発な意見交換が行なわれました。



深澤理事・副学長と共に司会を務める多和田会長





懇談に先立って「法人化後の新潟大学について」と題して学長の話題提供がありました。法人化の意味、新しい仕組みと財務、教育・研究への取り組み、就職活動の支援、産官学の連携…など、学長の話は現状から将来展望へと多岐にわたりました。

財務関係では、私学助成金に相当する国からの運営費交付金が今後年々1%ずつ減少し逆に病院収入の2%増が課せられるなど、経営という観念が明確化され、確実に意識改革を迫られているとの印象を強くしました。

主体の教育面では、不勉強な私には耳慣れない言葉が続出しました。副専攻制度ってご存知でしたか？ 各学部の成績優秀な学生に対して、複眼的な思考を養うために主専攻に加えて副専攻を認証するのだそうです。今年度6課題で既に課題別副専攻がスタートしており、17年度からは総合大学の特質を活かし、水準や分野毎に体系化された授業科目を学生が達成度に応じて選択するという全国でも初めての分野別副専攻が予定されています。

社会貢献活動の強化として、担当理事を配して外部との連携を図る新しい取り組みも特筆すべきことです。国際交流を視野に入れた産学官連携、県内5大学の連合組織による知的財産の管理と活用、新潟市などの自治体との連携等々。具体的には駅南キャンパスの公開講座や法律相談、IT利用による遠隔学習など、外部へアピールする事業が続々と提供され始めています。限られた紙面では伝えきれませんが、今後も定期的に発行される「協議会広報」に掲載され、母校の躍進が全同窓生に伝わることを願うものです。

学長の話題提供に続く財務担当理事の説明は更に経営の概念が伝わってきました。まず第三者評価の結果に基づく運営費交付金の配分は、そのまま競争での生き残りを意味するものです。第二に、交付金の用途は自由であるが大学独自の財務システムが担保されていることが条件になっています。第三に社会的信頼を確保するために財務内容を公開することが義務付けられています。具体的

な数値は「公開…」に期待してここでは割愛します。

本学部の多和田会長が国立大学法人と私立大学との違いについて求めると、私立には有る建学の理念に相当するものが従来の国立大学には無く、地域の要望から誕生した新潟大学は国立大学法人として、公共性を維持しつつ不採算部門も切り捨てずに教育を充実するなど、新たに理念を掲げて生まれ変わったとの概念的な説明がありました。財務的にも私立と国立の中間的立場で、運営費交付金の削減は必至で、交付に足る実績を重ねて交付金を維持できるか、私学助成金化していくか流動的であるとの見方も示されました。

さて、懇談の口火を切って歯学部教授で理事・副学長の河野正司先生がブランド力について話されました。交付金、資産、教育研究資産の合計では87の国立大学法人中17か18番目に位置し新潟大学は既にブランド大学であること、このブランドを更に高めるためには、現役学生時から同窓意識を醸成することが大切で、全学同窓会という7万人にも及ぶ連合体の持つスケールメリットを充分に活用していきたいと力説されました。

私が発した就職支援システムの具体策についての質問にも、河野先生は新潟大学に5年前に設置された就職部の取り組みを丁寧に披露してくださいました。東京の企業の就職説明会を新潟に誘致することなどは既に数年前からなされており、東海大学と相互に学生の就職支援を行なうなど私立に学ぶ姿勢も今までには考えられない展開です。

職場の卒業生のお話を聞く機会を設けたりガイダンスを開くなど、学生と卒業生の接点を多くすることは当然視野にあり、就職担当の副学長からは、産業界の様子に疎い就職部に対する支援要請も出され、同窓会に対する期待の大きさを改めて感じました。

歯学部生は世に言う就職活動とは無縁ですが、さすがに他学部の同窓生は社会に出て同窓意識を抱く機会が多らしく、このあと何人かが、ご自分の経験を交えて就職における同窓意識の果たす役割や効用を話されました。





最後に、既に皆様のお手元にお届けした連絡協議会広報紙第1号の評価や、今後広報紙の果たすべき役割などについて意見交換がなされ、定刻をかなりオーバーして閉会しました。双方の連携は緒についたばかりですが、多和田会長が言う法人化に対する各学部の理解度の格差を埋め、気楽に話し合える場の確保という目標は達成できたのではないかと感じました。

全学同窓会懇親会のご案内
 日時／平成16年10月30日(土) 18:00~20:00
 場所／ホテル新潟
 会費／1万円(予定)
 主催／新潟大学全学同窓会連絡協議会
<http://www.niigata-u.ac.jp/gakugai/gr/dousoukai/>

同窓会主催「歯学部6年生の進路をアドバイスする会」開催される

渉外理事 飯田明彦

恒例の同窓会主催「6年生の進路をアドバイスする会」が、2004年7月16日金曜日の午後7時から、歯学部大会議室で行われました。今年も事前に、学生に対するアンケートを行って、現段階での進路や知っておきたい情報を調査し、それらに対する回答を示す形で進められました。研修医義務化を間近に控え、学生の卒後の進路に対する関

心は高く、6年生のほぼ全員が集まりました。同窓会側からも多和田会長、佐藤副会長(福利兼務)、宮野副会長、鈴木副会長、成田専務理事、櫻井学術理事、上路総務理事、野内広報理事、岡田福利・厚生理事、芳澤総務理事、新美広報理事、中西広報理事代理、杉本渉外理事、齋藤渉外理事、飯田の各役員に加え、女子学生が多いということで学術担当の石田、田巻、杉田の女性委員にもご出席をお願いし、過去最多であろう18名の参加を得ました。

会は齋藤渉外担当理事の司会で始まり、まず、多和田会長から同窓会のあらましについてお話がありました(写真1)。特に、出身地に戻ろうと考えている場合には、全国に16ある同窓会の各支部との連絡を緊密に行うことなどについて説明が行われました。

佐藤副会長の御発声による乾杯(写真2)、同窓会関係者のユーモアを交えた自己紹介に引き続き、野内広報理事により講演が行われました。講演では今後の進路についてどのような道があるのかが、九州大学の資料、今回行ったアンケート調査の結果や、ここ数年間の同窓生の進路についての調査結果をもとに、詳細に話されました(写真3)。その後、学外の同窓会役員が学生7~8名のテーブルに、それぞれ1名ずつ配置され、学生との意見交換を行いました。緊張からかはじめは固かった学生の表情も、少しずつ和らぎ活発な意見交換が行われました(写真4)。会は9時過ぎに成田専務理事の挨拶で閉会しました。

事前のアンケート調査では、それぞれの進路の



写真1



写真2



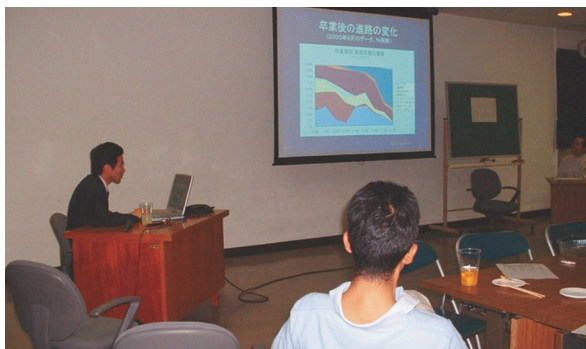


写真 3



写真 4

メリット・デメリット、将来の開業に向けての準備、勤務医の条件、大学院生活についてなど多岐にわたる質問が寄せられ、同窓会役員にとっては学生の真剣な姿勢や現在どのようなことを疑問に思っているのかを知る上で、また、学生にとって

も、それを同窓会役員や同級生に知らしめる上で非常に有用であると思われました。この企画が、学生の皆さんの進路決定に対し有意義なものになって欲しいと願っています。

